

公共事業再評価調書（県土整備部）

部課室名	河川開発課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川開発課長 中川 進三郎 (中村 浩康)	内線	4 4 2 6
------	-------	---------------------	--------------------------	----	---------

事業種目	ダム事業	事業名	事業区間		総事業費	6 3 億円
		丹南生活貯水池整備事業	篠山市見内			
所在地			事業採択年度	完成予定年度	経過年数	進捗率
篠山市見内			H 6	—	7年	2.9%

事業目的及び進捗状況	事業内容
河川改修と併せて丹南ダムにより波賀野川沿川の洪水被害を防除し河川維持用水や既得灌漑用水の補給を行うとともに篠山市の旧丹南町域に対し日量 1,700 m <sup>3</sup> の新規水道用水の取水を可能にする。	型式：重力式コンクリートダム ダム高：35.0 m 堤頂長：168.0 m 堤体積：52,000 m <sup>3</sup> 総貯水容量：489,000 m <sup>3</sup>

進捗状況 (社会情勢の変化)	平成6年度に事業採択を受け、地質調査、治水経済調査等を実施してきた。平成11年4月の多紀郡4町合併・篠山市発足に伴い、篠山市が広域水道水源対策として県営水道を受水することとなったため、丹南ダムによる新規水源開発の必要性が無くなった。 また、地質調査の結果、当初の想定より岩盤状況が悪く事業費が大きくなることが想定されたことから、治水対策の手法について再検討する必要性が生じた。以上の理由により平成12年度（予算上は平成11年度）に事業を休止した。またこの度、政府に対する与党3党の中止勧告を受けて、建設省より再評価実施の要請があり、公共事業等審査会に諮るものである。
-------------------	--

評価視点										
(1)必要性	波賀野川流域において50年確率規模の洪水が発生した場合、家屋約160戸、農地約45haの浸水被害が予想されることから、洪水被害を防除し県土の保全と民生の安定を図る必要がある。 新規水道水源開発は、篠山市が県営水道受水により手当済みであり必要性は無くなった。									
(2)有効性・効率性	<table border="0"> <tr> <td>・費用対便益</td> <td>当初</td> <td>今回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B / C = 1 . 7</td> <td>1 . 5</td> </tr> <tr> <td>・代替案比較</td> <td colspan="2">岩盤状況からダム規模が大きくなることを考慮すると現計画（ダムと築堤）の事業費は約103億円となり代替案の河川改修（引堤）の約92億円と比較して不経済となった。</td> </tr> </table>	・費用対便益	当初	今回		B / C = 1 . 7	1 . 5	・代替案比較	岩盤状況からダム規模が大きくなることを考慮すると現計画（ダムと築堤）の事業費は約103億円となり代替案の河川改修（引堤）の約92億円と比較して不経済となった。	
・費用対便益	当初	今回								
	B / C = 1 . 7	1 . 5								
・代替案比較	岩盤状況からダム規模が大きくなることを考慮すると現計画（ダムと築堤）の事業費は約103億円となり代替案の河川改修（引堤）の約92億円と比較して不経済となった。									
(3)環境適合性	武庫川の河川整備計画において、流域全体のバランスを考慮して検討を行う。									
(4)優先性	上記のことから、ダム事業を優先的に行う必要はない。									

評価の結果	中止	理由	上記のように、利水上の必要性がないこと、治水上も経済性において劣ることから現在休止中のダム事業を中止とする。 なお、波賀川の治水対策は河川改修により行うこととし、詳細については武庫川の河川整備基本方針、河川整備計画を策定する中で検討していくこととする。
-------	----	----	---